

令和7年度第2回 高山市子ども未来推進委員会 会議録

日 時	令和8年2月24日（火）13時30分～15時00分
場 所	保健センター 2階 集団指導室
出席者	委員 出席19名、欠席2名、事務局8名
開会	司会：子ども家庭センター長
あいさつ	子ども未来部長
議題	議長：委員長
事務局説明	①令和8年度新規拡充事業について ②令和7年度の事業実施状況について 説明：子ども政策課長 資料により説明
[発言者]	[意見・要旨]
委員	拡充事業に中高生に対する公共交通利用支援として、回数券への補助とあるが、現在の回数券購入状況はどうなっているか。
子ども政策課長	担当課が出席しておらず、細かな数字は答えられないが、普段は保護者の送迎などにより通学しているが、不定期でバスを利用する方が回数券を購入している。事業費は60万円であり、それに見合う利用実績を見込んだところである。
委員	自宅から学校へ直接運行するバスがなく通学には利用していないが、自宅から駅までの移動に回数券を購入することがあり、支援があるのは良いと思う。 自身も利用できるような学校へのバスルートが増えるとありがたい。
子ども政策課長	のらマイカーなど地域公共交通は市からの公費で運行されており、バスの増便やルート拡大については、一定の利用者数が見込めないと、なかなか難しいのが現状である。意見を担当課と共有させてもらう。
委員長	市域が広い高山市にあって、次年度から公共交通利用支援や不妊治療に対する交通費助成の新設、地域クラブ活動のバス運行が拡充されることで、手厚い支援をしてもらえると感じる。
副委員長	重層的支援体制整備事業について、最近、ひきこもりや生活課題を抱

委員	<p>える方を支援する事業所と関わるが多く、それぞれの支援者は苦労していると感じている。そういった地域団体のつながりが広がるような取組みを進め、地域全体で支援する体制としてもらいたい。</p>
委員	<p>オンライン意見箱の意見に「こどもタクシー」があるが、外国籍の家庭は運転免許を持っていないことが多く、移動は自転車や路線バスが中心である。高山は親による自家用車での送迎が前提のことが多いため、新規事業にある日本語学習指導員の配置も学校へ来られない場合の想定が必要である。</p>
教育委員会事務局長	<p>日本語学習指導については、そういったことにも十分配慮して実施していきたい。</p>
委員	<p>新規事業にある地域クラブ活動の運営に対する補助として、生徒1人あたり3,000円の助成をされるとのことで大変ありがたいが、部活動の種類によって必要な経費に差があることから、今後運用の中で考慮してもらいたい。</p>
教育委員会事務局長	<p>3,000円で全額が賄えるものではないと承知しているが、まずはその額で始めさせてもらいたい。</p>
委員	<p>つどいの広場は、未就学児が利用できる居場所となっているが、最近では1歳になると保育園へ入園するこどもが多く、平日は利用できるこどもが減っているため、運用の見直しが必要ではないかと感じている。</p>
こども政策課長	<p>来年度から拠点的に整備する3か所は一定の利用があるが、その他の場所は利用者が減少しているなど、課題感を持っているため、整備に併せて改善できるよう考えていきたい。</p>
副委員長	<p>子育てコーディネーターとして丹生川のつどいの広場へ入っているが、丹生川は旧高山市とも近いので、平日休日ともに一定の利用者がある状況である。最近は夏が暑いことやクマ出没などもあり、小中学生も外で遊びにくい状況であるため、つどいの広場を時間を区切って利用するなど小中学生用の屋内の居場所があると良い。</p>
委員	<p>SNSで情報発信することは良いことと思うが、成果指標の設定が難しいと感じた。5歳時健診の事後指導も良い取組みと思うが、今後、専門職の確保が難しくならないか心配である。</p>
こども政策課長	<p>SNSについては詳しくない分野であり、先日もインフルエンサーを</p>

	講師に招いた研修会を開催し、ライターや関係課職員が受講している。成果指標はフォロワー数が良いのか、いいね数が良いのか、その他に分析するツール等もあるようなので検討していきたい。
こども家庭センター長	5歳児健診については、指摘のとおり高山市では専門職が限られており、この取組みを実現するにあたって、医師や福祉サービスなど様々な分野の方々の協力を得て体制を整えることができた。今後も専門職を確保できるよう取り組んでいきたい。
委員	学校給食の無償化について、国府地域とそれ以外の地域で単価が違うのはなぜか。
教育委員会事務局長	国府地域は、合併前に飛騨市と高山市で組織した古川国府給食センターから給食の提供を受けており、他の地域と提供回数や単価が異なるためである。
委員	不妊治療に対する交通費助成が拡充されているが、妊婦健診に対する助成も考えてもらいたい。
こども家庭センター長	令和7年度から新たに妊婦健診や分娩の際の交通費に対する助成事業を実施している。
委員	今後も継続したクマ対策が必要と感じており、今年度も様々な取組みがあったが、来年度もお願いしたい。
こども政策課長	来年度クマによる人身被害防止にかかる体制等の充実を図ることとしており、緊急銃猟制度にかかる出動報酬の創設や捕獲技術者の育成など、対策の充実に取り組んでいく。 児童福祉施設や教育施設においても、引き続き対策していきたい。
委員	こども誰でも通園制度について、一時保育との違いがないような印象であるが、実施する理由は。
こども政策課長	こども誰でも通園制度は国主導により全国一律で開始される制度である。高山市は類似する一時保育があり、料金や利用条件が異なるため、利用希望者の意向を確認しながら適切なサービス利用につなげていきたい。
委員	こども若者の意見が施策に取り入れられた成功体験を与えたいとしていたが、状況はどうか。「言え〜る」以外にもこども若者の意見が発

	<p>表される場があり、各高校では探究活動の発表会や市議会との意見交換を行っているほか、中学校も地域の話聞きながら具体的な提言をしている。こども達がどのような提言をしたのか、教育委員会事務局とこども未来部で把握し、本委員会でも知らせてほしい。その中で、施策に取り入れられる意見等が見えてくるかもしれない。</p>
<p>教育委員会事務局長</p>	<p>各高校の取組みについては、教育長や担当職員が発表の場に参加したり、校長と意見交換を進めており、意見を施策に反映できるような取組みを考えていきたい。</p> <p>中学校については教育委員会で所管しており、発表の場に市長が出向いて生徒と直接意見交換するなどしている。本委員会でも発表内容等をお伝えできるよう進めていきたい。</p>
	<p>[質疑終了]</p>
<p>副委員長</p>	<p>高校生委員の皆さんは本日の内容について、今後も質問などがあれば、こども未来部の事務局へ聞いたり、こういった話があったよなどと生徒会にも持ち帰ってもらいたい。</p>
<p>閉会あいさつ</p>	<p>こども家庭センター長</p>